



薬丸裕英さんが ふるさとPR大使に就任

7月15日(金)、タレントの薬丸裕英やくまるひろひでさんが「大崎町ふるさとPR大使」に就任し、東町長が委嘱状を交付しました。

薬丸さんは「先祖が繋いでくれたご縁で光栄に思います。お力添えできるよう頑張ります」と話されました。また、町の特産品であるマンゴーやパッションフルーツ、干し芋を試食し「全国の方が知らないことが不思議なくらいにおいしい」と感動した様子でした。

薬丸さんは、祖父と父の母校である大崎小学校や、特産品の生産工場や農園などの訪問、先祖のお墓参りをしました。



女性議員たちの本音トークが 開催されました

7月17日(日)、町中央公民館において、「女性議員たちの本音トーク2022」が鹿児島県内の女性議員を100人にする会の主催で開催されました。

これは、女性の選挙への挑戦を後押しし、女性議員増員のきっかけになればと、女性議員がいない県内13市町のうち、本町と阿久根市で開催されたものです。

会のメンバーの女性議員が「お金をかけずに選挙を乗り切る」をテーマに、資金や子育てとの両立などについて話し、意見交換をおこないました。



漁獲量増大を願ううなぎを放流

7月8日(金)、大崎町内水面種苗採捕組合と有明町シラスうなぎ種苗採捕組合、志布志湾養鰻協会の皆さんが、約230キロ(約2,800匹)のうなぎを放流し、漁獲量増大を願いました。

これは、うなぎの帰巣本能を利用し、12月に解禁となるシラスうなぎ漁での漁獲を増大させることを目的に毎年実施されています。

大崎町内水面種苗採捕組合の齊藤千昭ちあき組合長は「放流したうなぎが元気に育って海に出ていき、シラスになって帰ってきてくれたら嬉しいです」と話されました。